

# 外国人県民と共につくる

## 明るく未来

まず質問です。ハローは英語ですが、ニーハオ、アンニョンハセヨは何語ですか。

それでは、シンチャオ、マガンダンハポンは何語ですか。(答えは後で。)

最近県内では後二者を母語とする外国人が急増しています。

平成と共に歩んだ当協会の30年を振り返り、令和に向けたビジョンを申し上げます。

### ●30年間の国際交流環境の変遷

《設立10周年までの歩み》激動の国際情勢  
下で産声》

当協会設立は平成元年、冷戦の象徴であったベルリンの壁崩壊の年です。この歴史的な激動の国際情勢の中、まさに国際社会のボーダレス化を背景として、当協会が発足しました。

とはいえ、当時、外国人と言えば、東京出張時に、六本木などではよく見かけましたが、在住外国人約2千人の本県内では、国際交流、外国人との交流は、身近な存在ではなく、発足当初は当協会のイベントも閉古鳥が鳴いていました。

私自身、就職後は国際業務との縁はなく、英語力も低下、欧州への新婚旅行で全く通じずショックを受け、再び英語を勉強し始めたのがこの頃でした。

《設立20周年までの歩み》在住外国人の増加》

しかし、県内在住外国人数は設立10周年の平成11年に4千人を突破する頃から急速に増加し、平成12年5千人突破、平成14年6千人突破、平成15年には約6千6百人となりました。

これに呼応し、当協会の事業への参加者が増加するとともに、当協会としても、従来からの日本人県民を対象とする国際理解講座などに加え、外国人県民を対象とする相談専門員配置や生活支援などにも取組を広げてきました。

私も、この頃、知り合いの書道教師と連携し、当協会を通じ募集したアメリカ人、ポーランド人、中国人などへの書道学習を支援したことを思い出します。

《設立30周年までの歩み》増加する東南アジアからの労働者》

その後、横ばいが続いた県内在住外国人数は、東日本大震災津波のあった平成23年に大きく減少しましたが、復興需要などを背景に技能実習などで働く外国人が増え、翌年からV字回復し、平成30年には約7千2百人となりました。

国籍は、かつては中国や韓国が主でしたが、最近ではベトナムやフィリピンなど東南

アジアが急増しています。(これが、冒頭の質問の答えです。)

近頃は盛岡でも、居酒屋やコンビニなどで東南アジア出身の外国人従業員によく出会います。

また、近年、外国人観光客が急増する中、いわて花巻空港国際定期便の就航、ラグビーワールドカップ2019<sup>TM</sup>の釜石開催など、本県の国際交流環境は大いに進展しています。

### ●外国人県民と共に地域づくり

今般、当協会では、設立30周年を契機に策定した、今後10年間の施策の方向についての長期ビジョンにおいて、3つの柱(①地域の国際交流推進、②外国人県民への支援、③グローバル人材育成)に整理した32の施策に取り組むこととしました。

その中で主軸となるのは、前述した本県の国際交流環境に鑑み、増加する外国人県民への支援であると考えております。

今や外国人労働者が国や地域を選ぶ時代です。

彼らが、引き続き岩手を選んでくれるよう適切に支援し、県内各地域で彼らと共に地域の明るい未来づくりに取り組む機運を醸成して参ります。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



公益財団法人  
岩手県国際交流協会  
理事長

ちよし  
智 嶺  
畠 山